



600字物語022村人A

2021/07/11



エリー ELYE

目次

600 字物語 022 村人 A	1
----------------------------	---

600 字物語 022 村人 A

俺はスライムをプチプチ叩いて必死に強くなろうと努力した。けれども周りをもっと強いモンスターと戦う中で、いつまでもスライムに手こずっていた。

同級生が生まれた田舎の村を去って、都会へ行っても俺一人残るしかない。

誰でもできる簡単な仕事を必死にこなしてなんとか食べていく。

数年後、一人、二人と帰ってきた。

限界を感じて、挑戦を辞めて引退した元勇者見習いたちだ。

夢破れて故郷に戻り、期待される戦いを辞めて、生活のための細々した雑用をこなす。

なかには価値観を変えられず、戦わない自分に価値はないと引きこもるものもいた。

俺は自分ができないことは彼らに頼んだ。

スライムすら倒せないことを知っているから渋々引き受けてくれた。

そうして村人には難しいが、元勇者見習いには簡単なことを引き受けるようになる。

そのうち子どもたちを鍛えだす。

下手だが俺も参加した。

誰でも自分よりできないやつがいると安心するものだ。何より楽しい。

誰もが俺の弱さを知っていたから、子どももお使いにしてくれる。

きっと将来立派な大人になるだろう。

俺のことは忘れるだろう。

けれど俺は覚えている。

そして訪問者に語り継ぐ村人 A になる。

600字物語022村人A

著 エリー ELYE

制作 Puboo
発行所 デザインエッグ株式会社
